



学校だより

# わかまつ

鈴鹿市立若松小学校

No. 34

令和6年11月28日

㊦くわく ㊦がやく子 ㊦なび合い ㊦ながる子

## ☆音楽会に出場する5年生に向けて..

## 【11月20日】



12月6日(金)の音楽会を前に、5年生は11月20日(水)5限目に、保護者の皆さんに演奏を披露したあと、1年生から4年生そして6年生の前で「光太夫太鼓」を演奏しました。各学年から温かいメッセージが寄せられましたので、一部を紹介します。メッセージは5年生が見やすい場所に掲示します。

- 1年生より ・ゆかにひびいていてすごい！  
・なみがドン！ときた感じがすごい
- 2年生より ・きょうのたいこ、とてもすごかったです。すごくはくりよくもあつたし、お話みたいでした。12月6日の音楽会もがんばってください。  
・きょうの5年生のたいこかっこよかったです。ぼくも5年生になったらやるんだなと思うと少しきんちょうします。
- 3年生より ・すごくたいこをいっしょうけんめい練習をしてるって思いました。セリフもおぼえてるし、たいこもすごかったです。わたしも2年ごたいこをするんだなってすごく思いました。ほんばんがんばってください。  
・ぼくは中だるのたいこを試してみたいとおもいました。おとがでかくてびっくりしました。おんがくかいもがんばってください。
- 4年生より ・全員のいきがあつていて、声が大きくてききやすかったなので、すごいと思いました。音楽会もがんばって下さい。来年は自分たちの番なのでがんばります。  
・リズムがはやいのに、みんなしっかりたいこをたたけていて、すごいと思いました。音楽会もがんばってください。
- 6年生より ・はくりよくがあり、一つ一つの音色がすごくあわさっていてきれいでした。音楽会では、みなさんで最高の作品をつくり出してください。  
・みんなに合わせて言う「はい」とか「そうれ」とかの声がそろっていて大きくてかっこよかったです。

## ☆「持久走記録会」..頑張っています！

11月11日(月)から「自分の目標に挑戦する」を目標に取り組んできた「持久走記録会」も12月2日(月)まで残りわずかとなりました。回を重ねるごとに5分間で走れる距離が増えてきています。あと数回がんばっていきましょう。【連日、体操服や赤白帽の準備ありがとうございます。】



# ☆第4回学校運営協議会 大木中学校区合同学校運営協議会

[11月21日]

11月21日(木)16:00より、大木中学校区合同学校運営協議会を大木中学校会議室にて行いました。若松小学校からは8名の学校運営協議会委員さんに参加していただきました。

ありがとうございました。当日は、「小中学生のメンタルヘルスとそのかわり方について」をテーマに、こころの医療センター精神保健福祉士の濱先生に、「若者のメンタルヘルスの特徴」や「考えていきたいこととして・SOSの受け止め方」などについて講演していただきました。

講演後、鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課より、「地域のできることのひとつとして、いつも見守っている子どもの気になる変化があれば学校へ情報を伝える」「鈴鹿市が取り組んでいる非認知能力育成の取組も若者のメンタルヘルスの安定につながる。学校だけではなく、家庭、地域も一緒に取り組むことが大切である。」とお話がありました。

参加者の意見や感想を一部紹介させていただきます。

- 若者(小中生)を取り巻くこころの問題については、教育(学校)・家庭・地域の連携もさることながら、医療との連携は欠くことができないと思います。このような状況の中、今回の研修は大変意義のあるものと感じます。予防的な対応が難しい中、早期発見・早期対応が求められ、適切な対応(治療)につなげることで、大切な命を救うことにつながると思います。今後もこのような専門家による研修会を持っていただけることを望みます。自傷行為の理解と対応、大変有難く思いました。
- 地域や家族は具体的にどう関わればよいのか。スクールカウンセラーの増員を望みたい。
- 家族への関わり方のコツとして家族の頑張りも労うと教えていただきました。実際に実践するときに心がけていきたいと思います。自分のストレスサインとダムの大きさを知って、あふれる前にコントロールすることが大切というお話が心に残りました。実際にストレスの対処法が身に付くように授業や学校生活で子どもたちを支援していきたいと思いました。
- 地域の人間として何ができるのか、どのように子どものサインをつかむのか、考えながらお話を聞かせていただきました。自分が考えている以上に思春期の子どもたちの心は不安定なのだと思えることができて良かったです。
- 承認欲求が強くなる状況になるほど、子どもはナーバスになりやすく、いわゆるマウントを取って“自己”を確立しようとするように思われます。常に人と比べたり、ステータスを保ったりすることが、自己顕示欲につながっていくのかもしれないと思いました。

学校では、担任や養護教諭と、伊藤スクールカウンセラーをはじめ、能仁ほっとルーム担当、見玉すすく教室担当、一尾スクールライフサポーターなど、子どもと関わる職員一同で、情報共有を心がけて子どもたちのサインを見守っていききたいと思います。気になる姿が見られたときにはご相談ください。